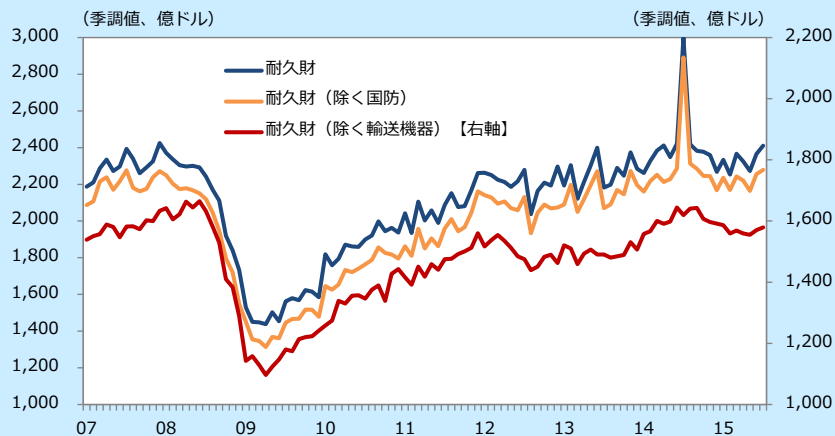


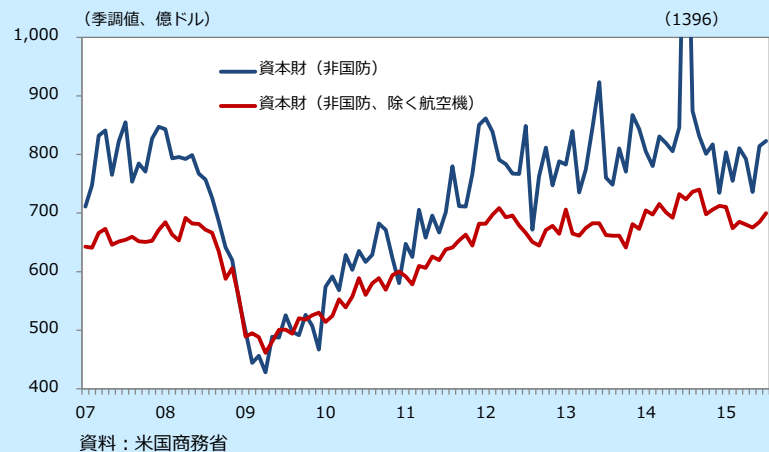
米国：耐久財受注（2015年7月）

MRI Daily Economic Points August 27, 2015

図表1 耐久財新規受注額



図表2 資本財新規受注額



評価ポイント

今回の結果

- 7月の耐久財新規受注(米商務省、8/26公表)は、季調済前月比+2.0%と2ヶ月連続の増加となった。金額では2,411億ドルとなり、リーマンショック前のピーク(07年12月、2,426億ドル)に並ぶ水準にある。振れの大きい輸送機器を除いたベースでも、同+0.6%の増加となった。
- 業種別内訳をみると、輸送機器が同+4.7%と前月(同+10.7%)に続き、高い伸びをみせた。自動車や同部品の受注好調が背景にある。そのほか、一般機械(同+1.5%)、コンピュータ関連機器(同+2.0%)、電気機器(同+1.3%)も増加した。
- 一方、一次金属(同▲1.8%)や金属製品(同▲1.3%)は減少した。一次金属は、14年秋以降、減少基調にあり、国際的な金属価格下落の影響が波及している。
- 設備投資の先行指標とされる非国防資本財受注(除く航空機)も同+2.2%の増加と、2ヶ月連続の増加となった。資源安やドル高の影響もあり、同指標は、14年秋以降弱い動きをみせていたが、この2ヶ月は持ち直しの動きがみられる。

基調判断と今後の流れ

- 耐久財新規受注は、持ち直しの動きがみられる。新興国を中心に世界経済の減速感が強まっているものの、米国経済は内需を中心に堅調に推移しており、企業の設備投資意欲の底堅さを示す結果となった。
- 今後も内需の回復を背景に、設備投資は緩やかに持ち直しの動きを続けるとみられるが、①中国をはじめ海外経済の減速やドル高による企業収益の悪化、②原油安によるシェール関連投資の採算悪化、③ドル高による海外から米国内への投資減少、などが足を引っ張る可能性には注意が必要だ。